

おお大勝利

令和3年度 山東サッカー部報第8号 (3月10日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

皆さま、**大変大変遅いご挨拶となりましたが・・・**

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

2021年11月に1年生大会が終わり、12月に納会があって、そこで一つ部報書いても良かったのですが、共通テストの指導で余裕がなく、新年に突入。新年一発目の週末に2泊での校内合宿を実施し、共通テストも無事終わったので、そこでご報告でも良かったのですが、横着してスルー。そうこうするうちに、**オミクロン株の流行により第2回校内合宿にストップがかかり、2月2日から「まん防」と「リバウンド防止」期間に突入り部活動そのものが活動停止に(3月6日まで)**。そうすると、「部活動って(青少年の運動文化活動って)、社会から応援されてないんだな～」と投げやりな気持ちになっちゃう。そして、やっぱり活動していないと、部報書く気にはならない。ようやく3月7日から活動が再開されましたが、①平日4日のみ、②90分以内、③マスク着用、④他校との交流禁止と厳しい制限に置かれる(3月21日まで)。**年度末の遠征は果たして実施できるのでしょうか?** 福島県への遠征を予定しておりますが、3月22日以降、交流可、県外遠征可と県の指示が変わらない限り、実施は難しい。とりあえず、3月17日高校入試合格発表とともに部活動再開、合格発表の日の練習場所はいつも学校グラウンド! 山東に合格したサッカー部入部希望者の皆さん、サッカーの道具をもって合格発表に来て下さいね(でも、今年は雪上サッカーになるだろうな～)。

唐突ですが、新年号では必ず触れている**恒例の?部報作成者顧問今野の残留確率の発表**と行きましょう。来年度(令和4年度)の今野の残留確率は**19%**です!! この確率の「計算式」については、HPにて平成29年度の部報最終号(16号)をご覧になって下さい。1年ずつ7%減少していきます。とうとう、**残留確率が5分の1を切りました**。今年で山東16年目ですから、毎年が勝負です。現在1年生の担任なので、「残留できるだろう」と昨年よりも安心して過ごしています。

さて、前号が県新人後号でしたので、それ以降の出来事をすべて書きたいと思います。

①一年生大会(11月20日)、②後援会主催の納会(12月17日)、③校内合宿(1月7日～9日)、④大学入試結果速報。

1年生大会 人数不足を補い 善戦

11月20日から村山地区の1年生大会が行われました。公式戦というか交流戦ですが、「同じ世代には負けたくない!」という1年生同士の強い気持ちのぶつかる伝統ある戦い。

私も、1年生大会の準決勝日大山形戦にて左足ミドルシュートを決めたときの感覚、今でも覚えています（得点を決めた直後の記憶はない⇒我を忘れて喜んだ初めての経験だった）。

さて、**今年の山東の1年生は11月時点で選手9名しかいない**（マネージャーはクルミ1名おり総勢10名）。ということで、サッカー部以外から助っ人を3名借りた。まずは、サッカー部を9月くらいで辞めた山形三中出身の**ソウタ**。そして山形三中でソウタのチームメイトだった**サノチャン**。そして、強いメンタルの持ち主としてモリメンタルのあだ名もあったモリヤ（山東第71回卒、2021年3月卒業）の弟の**モリヤ**。**サノチャンはその後、サッカー部に入部してくれました！**

さて、相手は山本学園。来年度から惺山高校として再出発する。会場は山形明正の人工芝。**この試合、選手のヤマトにレポート書かせました**ので、以下掲載します。ヤマトは試合後すぐ書いてくれたのですが、私が部報作成しなかったもので、ここまでお蔵入りしておりました。ヤマト、やっと約束果たせました……。結果は0対0(PK4-5)の敗北でした。

試合を総じての分析としては、山東は決定機こそ多かったものの決めきることが出来ず、縦に速いサッカーであったのに対して、山本は決定機こそ少なかったものの繋ぐサッカーを意識したものだ。

山東はフィジカルの強い**マサツナ**、**ヨシモト**を軸に裏へのパスが多く、そこからゴールのチャンスへと直結していた。山本のバック陣ははね返しが安定しておらず、そのミスからチャンスが生まれることも多かった。

対して山本はルーズボールを積極的に拾い、サイドへ展開することでチャンスを作り出そうとしていた。ここに関しては山東の右サイド側は**リュウキ**がファーストとして守備にいき、拾い損ねたものを**サノ君**や**ソウタ**が回収するという形で、左サイド側は**カルロス**と**トシキ**がファーストとして守備にいき、**ユウゲン**がカバーに入るという形で守りきれたシーンが多かったが、時折山本のボランチが正確なパスを出せていたら危なかった、というシーンもあり、相手のミスに助けられたところも多かった。

そのため、結果として山東が決定機を作るシーンが多かった、という試合となったが、攻撃は単調なパスからであったため崩したという訳ではなく、逆に守備も相手ももっと裏へのパスを積極的に出したり、崩すことの出来る正確なパスが多かったりしていたら相手の決定機が増えていたと考えられる。

ただ、それでも決めなければならないシーンで決められなかった山東の決定力の無さが今回の敗北につながった事は間違いない。それはフォワード陣だけではなく、チームとしての課題であるため、今後に改善が求められる。

また、相手に身体をぶつけて競り負ける、試合終了までプレーの質を維持することが出来ない、といったフィジカル面での課題も多く見受けられた。この冬季期間でのフィジカル強化をそれぞれが声をかけてしっかりとやっていきたい。

（ここからは私個人の振り返りです。）

今回の試合は、ボランチは相手に支配されていた、という結論になるだろう。ルーズボールを拾われ、相手ボールにしてしまう、というシーンが多く、また、相手の方がボールが収まっており、サイドへの展開を許してしまうシーンも見受けられた。対して自分もそもそもボールを受ける回数が少なく、受けても収まらない、相手に奪われてしまう、というシーンが多すぎた。また、自分のヘディングが全く安定しておらず、後ろへとボールが流れてしまっていた。今日の試合ではバック陣が上手く処理してくれたため決定的なピンチにはならなかったものの、レベルの高い試合であつたら相手に決定機を与えてしまう、やってはいけないミスである。以上から今後はスクリーンをしてボールを奪われぬ、ヘディングで相手に負けない、ルーズボールに反応する、落ち着いてプレーする、ということを中心に課題と認識して改善していかなければならない。

また、攻撃参加の回数も少なかった。**ジョニダンことサカイ**のところでボールを収めてくれることが多かったが、そこに対するボランチのサポートがほとんど無かった。パスを出して終わりにするのではなく、次もう一度受ける、という意識を常に持ち続けなければならないと感じた。

最後に

全体的に高校生のサッカーとは言えないほどのレベルの低い試合であったが、それでも**普段試合に出ていない人が試合に出たり、普段先輩に引っ張られている人が自分の力でチームを引っ張ろうとしたり、と非常に意味のある試合であった**と思う。また、**普段サッカーをしていない助っ人の面々から刺激を受けて、全員が危機感をより強く感じた**と思う。何より**1年生のみでの公式戦を経験したことで、全員の繋がりも強まった**と感じている。今回の敗北の悔しさを忘れず、今後も精進していきたいと思う。

指導して下さったコーチ陣の皆さん、陰ながら支えてくれたマネージャー、テスト期間にもかかわらず応援に駆けつけてくれた2年生の皆さん、送迎をしてくれた保護者の皆さん、この大会に関わってくれた多くの人に感謝を申し上げます。

2年連続飲食なしの納会 優秀 選手賞は授与

12月17日（金）**第40回**山東サッカー部納会が山東会議室にて行われました。例年、山形市の中島商店にて「すき焼きを食べる会」なのですが、コロナ対策として2年連続の授与式のみ举行されました。もちろん、**マネージャーが作成した一年間の公式記録集**は作成。本当に来年こそ、伝統を絶やさないで举行したいものです（新3年生はすき焼きを一度も食べない学年になってしまいます・・・）。

まず会長から今年一年の悔しさ嬉しさを総括するお話と3年生への受験の激励のあと、5名の優秀選手賞を発表し表彰。OBの方々から激励の一言を頂戴し、2年生キャプテンの感謝の言葉があった後は、3年生の決意の言葉で終了。3年生は納会で述べた志望をぜひかなえてほしいと思いました。

矢吹晃成

モンテの下部組織出身で、県トレセンのメンバー。近年の山東にない豪華な経歴の GK。入部の段階で、キャッチ、ポジショニングに優れ、シュートストップには安定感があり、1対1の対応にも優れ、即戦力だった。ただ、キックでの展開力に欠け、そこに魅力のあった3年生からポジションを奪うまでには至らなかった。その後、不動の GK として活躍するかと思われたが、FP との二刀流を希望しており、また FP の層の薄さもあり、GK を一つ上の先輩に任せて、FP で出場する試合も多かった。最終的には、GK からスタートし、どうしても得点が欲しい場面で GK から FP にポジションを変えて出場する、しかも、得点に絡むことを期待されトップやアウトサイドハーフなどの前線で出場した。彼が GK でいてくれたおかげで、何失点防げたかわからない。大学でもサッカーを続けることを希望しており、さらに高いレベルでもまれながら成長し、山形東出身の選手として活躍してくれるだろうと思う。GK としてハイボールやパントキック、FP へのコーチングに改善の余地があるし、FP としてもより特徴を持った選手を目指すことができる。

平山翔馬

入学当初の印象はあまりない。さして特徴ある選手ではなかった。しかし、夏以降アウトサイドのドリブラーとして頭角を現し、ポジション争いに加わり始めた。冬の東北大カップでは、左サイドでプレーする右利きのドリブラーとして活躍し、翌シーズンの期待を高めた。しかし、新シーズンで故障と復帰を繰り返し、最終的には膝の十字靭帯損傷という重傷を負ってしまった。選手生命を危うくする故障だし、高校サッカー、しかも IH で引退する進学校の部活動という短い選手期間を考えると、サッカーに絶望してもおかしくなかったが、心底サッカーが好きだったのだろう。前向きにリハビリを重ね、他の選手の練習を手伝い、チームと行動を共にした。3年生になり、ようやく選手として復帰したが、以前の体のキレやプレースタイルが取り戻せず、復帰後も悔しい思いをした。ピッチ上で思ったような大活躍が描けなかったが、怪我と戦い、怪我を乗り越え、ピッチに戻った彼の高校サッカー生活に、最大級の賛辞を贈りたい。将来は、自分のような選手を治す整形外科医を志望している。まずはしっかり勉強してほしい。

樋場秀作

リフティングさせれば上手く、柔らかなボールコントロール技術がある。個人練習だけ見ると巧い印象を与えるが、入部当初 11 対 11 のピッチに立つと高い強度の中で技術を発揮することが全くできず、また自ら高い強度を維持するフィジカル能力とハートの強さが欠けているため、一言「戦えない選手」だった。分析能力があり過ぎる故か、プレーしながら独り言で自分のプレーを分析したが、そのことにも顧問やコーチから改めるよう強い叱咤を受け続けた。その後、短所の克服に努めつつ、分析能力をグラウンド・マネージャーの仕事に昇華させ、チームをリードした。最後の県総体の試合では、途中出場ではあったが配球、球際共に成長を見せ、間違いなくプレーでもチームをリードした。選手として最後のプレーとなった県リーグ戦では、これまでの悔しい気持ちを晴らすファインミドルシュートを突き刺したことが、今特に印象に残っている。今後は、頭脳派としての側面だけでなく、グラウンド・マネージャーや山東祭実行委員長として培ったリーダーシップで、世界に貢献してほしい。

秋葉壮梧

スピード、パワーといった運動選手としての能力に欠けているが、サッカーの戦術眼とキック技術には確かなものがある選手。入部当初、中学校1年生のようなフィジカルだったが、視野の広さがあり、配球にビジョンがあった。しかし、肝心の技術でキック以外秀でたものがなく、活躍しどころの少ない選手だった。その自分の短所をよく自覚し、とにかくよく練習した。公式戦のピッチに立てば、そのことが練習のモチベーションとなり、試合と練習との好循環が生まれるが、彼はなかなか試合に出られない中、サッカーへの情熱だけは衰えることがなかった。顧問としては、そのプレービジョン、キック技術そして情熱ある選手を、試合で活躍させるところまで成長させてやれなかったとの力不足を感じている。試合の時、ピッチから目を離し、アップしている控え選手を見ると、彼は常にいつ声がかかってもいいように準備していた。ピッチでの活躍という面では成功した高校サッカー生活ではなかったかもしれないが、彼のひたむきさ、ボールへの愛情は全後輩の見本である。今後も、サッカーに携わる人生を歩んでもらいたい。

出口智大

高校1年生の時の応援写真を見ると、すぐには彼がどこにいるかわからない。3年生となった今は身長も伸び、たくましい体をまとっているが、入部当初は体が小さく、ちっちゃな体で頑張っている選手でしかなかった。当初は、チームにアクセントをつけるような技巧派のプレーが目立ったが、夏以降、小さい体ながらガツガツと相手に当たり、ボールを刈り取るプレーが目立ち、チームの元気印の方向での成長があった。徐々に体の成長がついてくると、そのプレースタイルがはまり始め、守備の意識が高い選手になっていった。しかし、攻撃的なポジションを任せられる中、攻撃でチームに貢献する仕事がなかなかできず、悩んだ。2年の途中からは主将も任せられ、自分のプレーだけでなくチーム全体を気にかけてあげなければならず、大きなプレッシャーを感じた。ただ、技術がないんだったら走るしかない、ドリブルで振り切れないんだったらそのままシュートするしかないという思い切りと献身性があった。この学年の得点には常に彼の関わりがあった気がする。選手が少なく、なかなか結果の出ないチームの主将で苦労したが、それも彼の人間の幅を大きく広げたと言っているだろう。今後もこの学年のまとめ役は彼しかいない。

恒例の校内合宿、

1回だけ実施！

近年の冬の山東は、コロナとは関係なく、県外遠征に全く行かず、校内合宿で力を溜める方針でやってきました。その理由は、①降雪のため外で練習できないが、体育館なら朝と晩は空いており、合宿なら朝晩の2部練できる、②運動選手らしからぬ細い体型の選手ばかりなので食事合宿としても有効、③満足に練習できていないのに県外遠征に行っても得られるものが少ない（冬場の Training を Match で確かめるほど、良い Training 積めてい

ないので、まずは良い Training をしっかり積みたい¹⁾ というもの。

一枚目左で述べたように、事情により今年は**1月7日~9日**の1回のみしか実施できなかったが、朝練は5:00開始。夜練は19:00開始と例年の通りのスケジュール。その間は、休息だったり、学習だったり、フィジカルトレーニングだったり²⁾。朝練と夜練の間には、2年マネージャーのミナミと1年マネージャーのクルミの握るおにぎりを頬張る。そんなので、朝昼夕の三食は**テーリックさん**によるガッツリした食事。腹パンパン、そして寝不足気味になりますが、多くのOBが「辛かったけど、一番うまくなった実感がある」と評するのが、山東の校内合宿なのです。今年は、宿泊したわけではありませんでしたが、**山形大4年寛泰、山大医学部3年海都、東北大3年駿、東北大1年力輝**（以上山東第68回卒）、**新潟大1年中野**（山東第71回卒）が参加してくれて、共にプレー。そのプレーや声掛けで、現役生が自分たちだけで練習しては気づかない刺激を与えてくれました。5人ありがとう！ OB対現役生フットサル対決で、もちろん技量に優るOBの勝利に終わったのですが、現役生が粘り強く戦ったので、気持ち良く勝つことができなかったようで、OBからは悔しい系の発言がありましたね、そう言えば。

せめてもう一回は合宿を実施したいと思っておりましたが、オミクロン株の流行で実施できず。練習もままならない初めての冬となりました。4月第2週から県リーグが始まるというのに、大丈夫なんですか。重症化率の低い変異株の流行のたびに同じこと（活動停止）をしていたのでは、青少年の健全な成長の妨げになるばかりと思わざるを得ないのですがね〜。大学の授業がリモート中心で、大学に行っても新しい友達ができないなど、キャンパスライフを奪われたOBOGの声を聴くにつけ、優先順位の誤りを思わないではいられません³⁾。

大学入試結果速報！

正確には、次年度の部報でお伝えしますが、私大と国公立の前期試験の結果が続々届いております。今年は何と！ 過去最高の結果をサッカー部現役生と浪人生が叩き出してくれ

¹ この英語表現は、よく指導法と言われるところのMTMのサイクルを意識しています。試合 Match の分析から Training の内容を導き、その成果として再び Match を設定するという流れ。山東にある程度力があつた時代は Match→Match→Match でも向上していけましたが（ある程度以上の選手は試合の中で、試合によって成長していけるが）、ある頃から現状の山東に合っていないと感じ始めました。

² 今年の合宿のフィジカルトレーニングは4月から筑波大学の体育で大学院に行くOBの寛泰（上で紹介）にお願いしました。

³ 全くの余談ですが、コロナ流行により、時間的余裕ができたので、実は昨年からスキーに行くようになりました。もともと学生時代してましたし、社会人になってからも、楯岡に住んでいた頃はジャングルジャングルのシーズンチケットを買って滑っていました。しかし、山東に来てからはスキー道具は完全にお蔵入り。子育てあるあるですが、子どもが大きくなって、子どもをスキーに連れて行くようになり、親である私も4年ほど前から再開。そんなので、今回のコロナで、スキーしかやることのない生活になってしまった。怪我の功名と言いますか、塞翁が馬と言いますか・・・現在蔵王の10時間券4枚目に入っており、5枚目突入がほぼ確実。5枚目行くんなら、シーズン券買った方が安かったな〜。来年はシーズン券買いたいと思います。アウトドアの活動で、感染のリスクなしに余暇に興じられる山形って最高だな〜と感じる毎日です。保護者のご理解が得られるなら、山東サッカー部スキー教室やってもいいな〜なんて思う毎日です（サッカーの練習ができないだけに遊びでスキーして足腰を鍛えると）。

ました。現時点で・・・

東京大学 合格 2名

東京工業大学 合格 1名

東北大学 合格 4名

慶應大学 合格 1名

千葉工業大学 合格 1名

昭和大学 合格 1名

いや～素晴らしい！！

文武両道の山東サッカー部出身者よ、あっぱれ！！！！